

令和3年産

大崎稲作情報 第5号

令和3年7月5日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

今後の管理のポイント

- ✓ 穂数の増加・登熟良化のために追肥を行いましょう。

1. 気象経過

6月第5～第6半旬の気温・日照時間は平年並みでした。降水量は平年を下回りました。

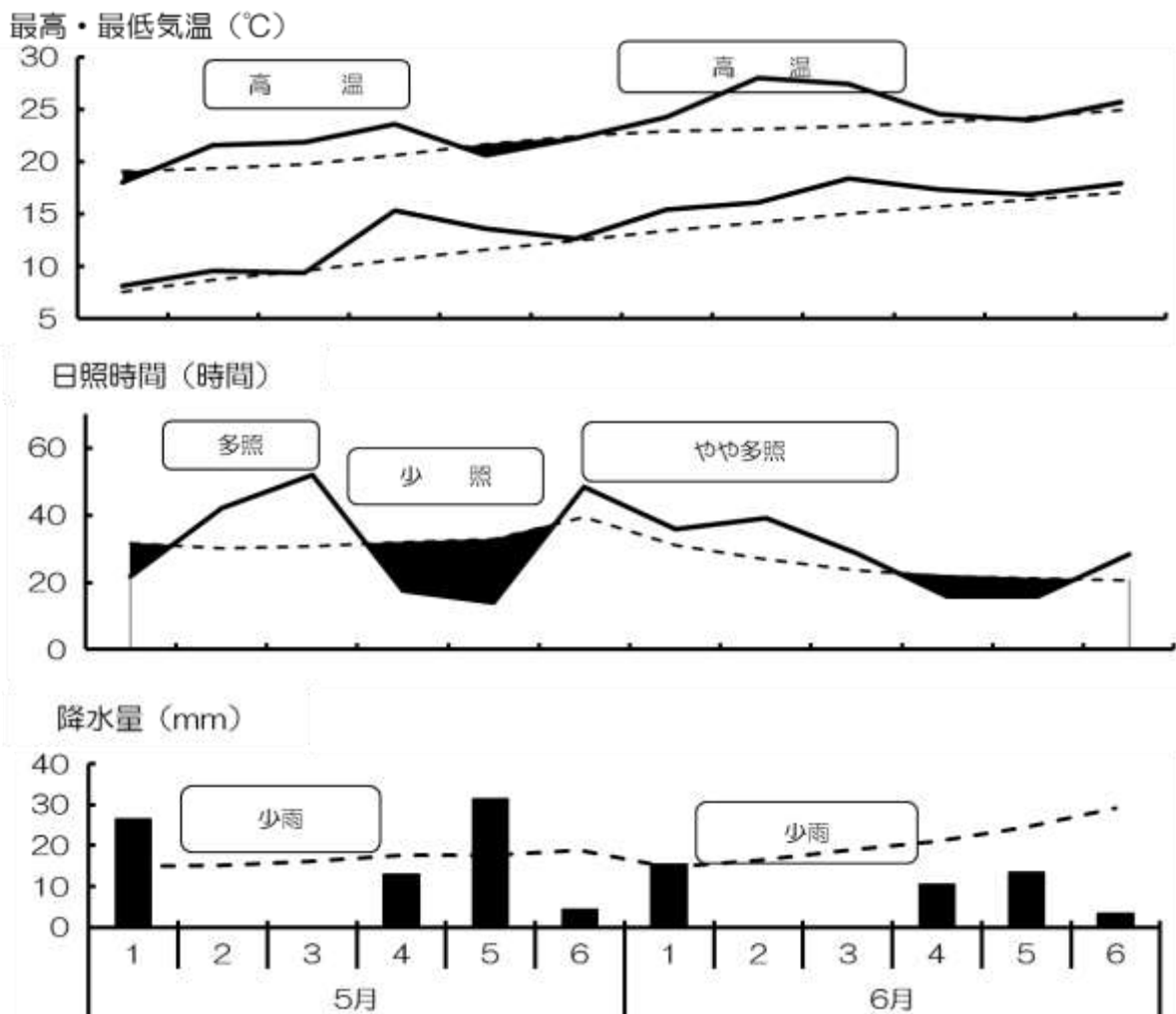


図1 5・6月の気象（古川アメダス）

2.生育概況（7月1日現在）

生育は順調に進んでおり、草丈は平年を上回り、莖数は調査ほ場にもよるが概ね平年並でした。葉数も概ね平年並～平年を上回るほ場が多く、移植時期の早いものでは幼穂が確認されています。

品種名	地区名	田植・播種月日	草丈(cm) (平年比)	莖数(本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	幼穂長(mm) 幼穂形成始期	備考
ひとめぼれ	大崎市三本木	5月2日 (3日早い)	59.7 (116%)	577.2 104%	10.0 (+0.2)	43.4 (-0.1)	1.0 7/1	幼穂形成始期7日早い
ひとめぼれ	加美町小野田	5月16日 (1日早い)	52.6 (111%)	543.8 105%	10.3 (+0.7)	43.6 (-1.4)	0	
ササニシキ	大崎市古川	5月10日 (1日遅い)	49.4 (99%)	439.4 66%	9.1 (-1.0)	44.2 (+0.9)	0	
つや姫	色麻町四竈	5月3日 (1日遅い)	52.6 (104%)	607.2 103%	10.0 (+0.4)	40.3 (-5.0)	0	前年比・差
だて正夢	大崎市三本木	5月16日 (13日遅い)	60.5 (106%)	527.9 127%	10.3 (-0.2)	45.8 (+8.8)	0	前年比・差
金のいぶき	大崎市三本木	5月10日 (3日遅い)	53.4 (107%)	556.9 86%	10.8 (-0.4)	38.2 (-0.2)	0	前年比・差
まなむすめ	加美町宮崎	5月14日 (平年並み)	56.4 (115%)	586.0 101%	10.2 (+0.6)	38.4 (-3.4)	0	
ゆきむすび	大崎市鳴子温泉	5月22日 (2日早い)	43.4 (117%)	282.4 109%	7.6 (-0.8)	43.7 (+1.0)	0	前年比・差
みやこがねもち	大崎市岩出山	5月16日 (2日早い)	49.7 (110%)	523.9 (93%)	10.1 (+0.3)	34.9 (-3.7)	0	
ひとめぼれ (湛水直播)	加美町米泉	5月3日 (4日早い)	42.7 (116%)	527 (96%)	9.4 (+1.1)	40.9 (-0.7)	0	
県平均（ひとめぼれ 24ほ場）			53.2 109%	536 96%	9.8 (-0.2)	40.9 (-2.1)		

※平年比・差は前5か年（平成28年～令和2年）の平均値との比較

3. 追肥

基肥の窒素肥効が無くなり、穂数（籾数）の不足や登熟不良が予測される場合は追肥によって生育調整を図りましょう。

～ 近年の品質低下（白未熟粒の発生）について ～

近年は穂揃期の葉色低下や高温登熟により、白未熟粒等が発生し品質低下することが多くなりました。葉色の急激な低下（窒素栄養の不足）を防ぐため、適切な追肥を検討しましょう。

- 追肥の主な効果

追肥は白未熟粒の発生軽減や光合成能力の向上等の共通した効果に加え、施用時期によっても異なる効果が現れます。

表2 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い，○：効果あり，×悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質の増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

● 追肥の目安（施用時期・施用量）

品種によって施用時期・施用量が異なります。施用時期と葉色を判断し、適正量を施用しましょう。「だて正夢」の幼穂形成期までの生育量が少ない場合は、幼穂形成期・減数分裂期にそれぞれ「窒素成分 1.0kg/10a」ずつ追肥することで、適正粒数の確保に努めましょう。

表3 追肥の目安

品種名	幼穂形成期（幼穂長:1~2mm） 出穂25~20日前		減数分裂期（幼穂長:30~120mm） 出穂15~10日前	
	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）	施用量 (N成分/10a)	葉色（SPAD値）
ひとめぼれ	1.0kg	38~40	1.0kg	35~37
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg	32~34
つや姫	2.0kg	35~37	—	—
だて正夢	—	—	2.0kg	37~39
金のいぶき	1.0kg	33~35	1.0kg	30~32
まなむすめ	2.0kg	35~37	—	—

4 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう

低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがあるので、深水管理を行いましょう。

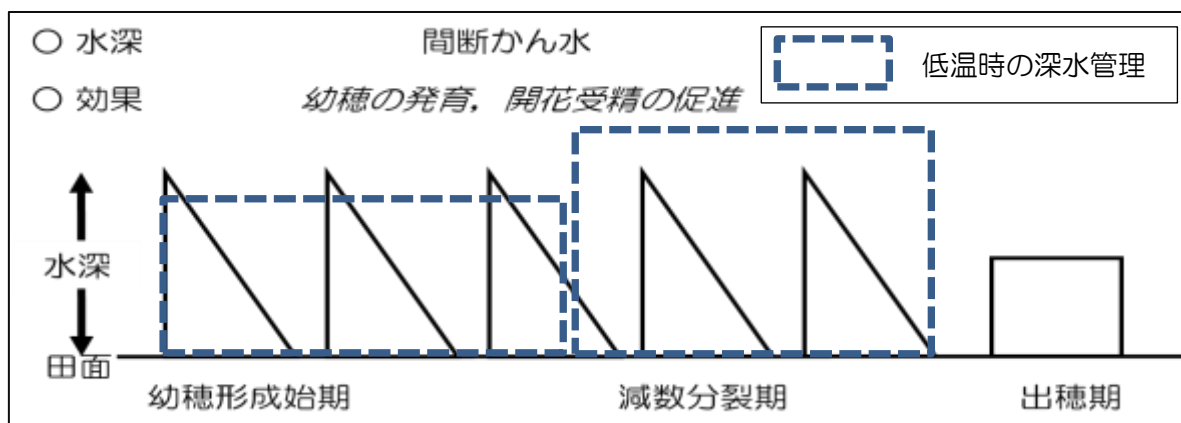


図2 今後の水管理

東北地方 1 か月予報
(7月3日から8月2日までの天候見通し)

令和3年7月1日
仙台管区气象台 発表※抜粋

<予想される向こう1か月の天候>

期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は、平年並または高い確率とも40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%です。2週目は東北太平洋側で平年並の確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】 東北太平洋側	20	40	40
【降水量】 東北地方	20	40	40
【日照時間】 東北地方	40	40	20

<気温経過の各階級の確率(%)>

	低い	平年並	高い
1週目 東北太平洋側	20	40	40
2週目 東北太平洋側	20	50	30
3~4週目 東北太平洋側	30	40	30

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆**農薬危害防止運動(6月1日~8月31日)**◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ 「農薬は 周りに配慮し 正しく使用」